



東洋学園だより

Vol.8

「東洋学園だより」は、東洋学園大学同窓会および東洋女子短期大学同窓会からの名簿提供（2019年10月10日現在）に基づいてお送りしております。

CONTENTS

旦祐介学長からのメッセージ	1
TOGAKUニュース	2
TOGAKUニュース	3
在学生・卒業生トピックス	4
教員・職員メッセージ	5
教育振興資金のお願い／東洋学園の歴史	6
大学院／入試	7
インフォメーション	8

「東洋学園だより」第8号 2019年12月1日発行 [発行・編集] 学校法人東洋学園 学生支援課 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL.03-3811-1072 E-MAIL.koyukai-info@tyg.jp

旦祐介学長からのメッセージ

「建学の精神“自彊不息”や “国際人の育成”が具現化」

東洋学園だよりをお読みの皆様、日頃から東洋学園をサポートしていただきありがとうございます。
旦学長より学園の近況をお伝えいたします。



東洋学園大学 学長

旦 祐介 (Yusuke DAN)

東京大学教養学部教養学科イギリス分科卒業、米国アマースト大学教養学部卒業（政治学）、東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専門課程博士課程単位取得満期退学。学校法人東海大学国際本部長、東洋学園大学副学長を経て現職。国際政治学会会員、人間の安全保障学会監事。

学びに意欲的な学生が増加中

この数年、学ぶ意欲のある学生がとて増え、授業の雰囲気が大きく変わった、入学前講習の時に遅刻者・欠席者もなく最後まで熱心に参加していた、と教員の多くが感じています。背景には大学入試を取り巻く外部要因もありますが、教職員が週末返上でオープンキャンパスを盛り上げ、粘り強く1,000近くの高校を訪問してくれているおかげでもと感じています。加えて勉学の本郷キャンパスに集約した影響は過小評価できませんし、在学生から後輩への口コミが奏功しているのかもしれない。皆様に感謝いたします。

東洋学園大学は創設27年になり、本学園卒業生がお子さんの進学先を選んでくださる時代になりました。毎年実施している家族会(保護者会)には、そうした卒業生保護者数名を含め、本年度も予想をはるかに上回る数のご両親・ご家族の皆様が出席されています。心からお礼申し上げます。家族会懇親会では、本学が学生に寄り添う教育を目指していることが伝わっていると感じます。

本学は、現在、在籍者数2,600余名を数え、このところ毎年すべての学部学科で文科省定員を充足した状態になりました。本年度新入生は、一般入試・センター入試の入学者がとて多くなり、逆にAO(アドミッションズ・オフィス)入試は全学部で倍率が高くなりました。中退率も少しずつですが減少しています。教員には、学生の勉学姿勢に合ったレベルの授業と課題を提供してほしいと願っています。なお、グローバル・コミュニケーション学部は2017年度入学者(現・3年生)から卒業論文が必修になります。英語で卒論を書く学生も増えるでしょう。英コミ学科は教職課程の再課程認定に合わせた改革で、英語力をより高める科目群やPBL(プロジェクト実施型授業)などを組み合わせた系統だった意欲的なカリキュラムに移行しています。その他の学部も、コース改革やカリキュラム改定を準備しています。

ここで在学生の様子をいくつかご紹介します。今春、千葉県の教員採用試験に現役で合格した男子学生が高校で働き始めました。いわゆる教職課程の再課程認定の申請に尽力した教職課程の教員にとっては、幸先の良い話となりました。また、4年生にはTOEICの試験で満点の990点を取得した学

生が現れました。満点は教員でも少し勉強しないと取得できない水準です。両学生には学長特別賞を新設して表彰しました。

国際人の育成も、さらに活発化

本学の建学の精神のひとつは国際人の育成ですが、国際交流センター長期留学プログラムでは2018年度に2ケタの学生を送り出すことができました。行き先は米国だけでなく中国、韓国、マレーシアも含まれます。新しい傾向です。現代経営学部や人間科学部でも長期留学を目指す学生が出てきました。

ICP(国際キャリアプログラム)においては、昨年度に7名を学部留学(語学留学と違い、留学先で学部所属正規学生とともに自分の専門に近い科目を履修する留学)に送り出すことができ、今年度は11名が学部留学に出発しました。この特色あるプログラムに応募できる意識と学力を兼ね備えた学生が入学するようになったと言えます。

2014年より続く米国サム・ヒューストン州立大学(以下、SHSU)のサマースクールは、本郷キャンパスにて着実に本学学生のグローバル化に資するプログラムとなりました。本学学生は、栃木寮滞在や野球観戦などの公式プログラムとは別に、SHSUの学生と連れ立って都内観光をするなど積極的に交流しています。休暇中にSHSUキャンパスを訪れる計画を立てている学生もいて、学生の行動力には感銘を受けます。

現代経営学部では、韓国で大企業幹部に対して学生グループ企画をプレゼンするゼミナール活動が教育の新しい方向性を示しているように感じています。人間科学部の学生は、国家資格である公認心理師資格のための新カリキュラム

サマースクールで来日したSHSU学生との交流

を目指し、大学院受験のために英語も必要になっています。昼休みに毎日開催しているイングリッシュ・ラウンジ(1号館3階)は、通常の日でも、英米から来ているインターン生や特別講師の先生方と英語で話したい学生で常に満席です。私も時間の許す限り出席しますが、最近は現代経営学部や人間科学部の学生もよく来ます。彼らの多くは1年生ですが、日常会話は結構よく通じます。1階ロビー等で開催されるラウンジイベント(チェコ文化紹介、インターン生のフェアウェルなど)の時は、全学から150名以上が参加し入りきれないほどです。アンケートによる意識調査でも、英語を話せるようになりたいという学生は、学部を問わず驚くほど高率です。この1、2年の学生の変貌は目を見張るものがあります。

グローバル化の動きを中心に、駆け足で東洋学園の近況をお伝えしましたが、最後に皆様の関係する会社で、学生1名1週間でもインターンとして受け入れていただけませんか。1時間の企業訪問で直接お話を聞かすだけでもかまいません。そうした体験で彼らは人生の先輩である皆様方に会い、キャリアの大切さを感じ取るでしょう。ご協力くださる方は、ぜひ大学までご連絡ください。皆様の後輩の若者たちのためにぜひともご検討をお願いいたします。

同窓生の皆様には、今後とも変わらぬサポートをよろしくお願いいたします。



世界に飛び出し、グローバルな学びを!

ICPや長期・短期留学、海外インターンシップなど、TOGAKUにあふれるグローバルな学びの機会を活用し、世界に飛び出す学生が続々登場しています。将来、国際人としての活躍が期待される学生たちの姿をご紹介します。

史上最多の11名が学部留学へ海外で活躍する卒業生も!

国際キャリアプログラム(ICP)では、4期生4名が学部留学を終えて帰国。その一人である千田美雪さんは、「自分と向き合い、人間的に成長するきっかけにもなった」と振り返ります。

2019年秋学期からは、5期生が学部留学へ。ICP史上最多の留学者数となる11名がアメリカとオーストラリアに出発。留学に先立ち、7月に行われた留学結団式では一人ずつ英語でスピーチを行い、これまでの自身の成長ぶりや、仲間・教員・家族への感謝、留学に向けての決意、将来のビジョンなどを自らの言葉で語りました。

また、2019年4月に卒業したICP2期生の佐藤会沙さんは、グローバル企業に就職し、6月より勤務地のインドネシアに渡航。世界を舞台にキャリアを積み始めています。



ICP5期生の留学結団式の様子

春休み・夏休みを利用して留学やインターンシップを体験



初開催となった韓国短期語学留学の様子

近年、春休みや夏休みを利用した短期留学プログラムに挑戦する学生が増加しています。2018年度春期には計30名がアメリカ、カナダ、中国の大学で短期留学を経験しました。

また、2019年度夏期には、イギリス・グロスターシャー大学への短期語学留学(16日間)に9名が、オーストラリア・ボンド大学への短期語学留学(17日間)に4名が参加。「英語オンリーの環境で積極的に発言できてよかった」などの感想が聞かれました。

さらに、2019年度より正式プログラムに加わった韓国への短期語学留学には10名が参加。また、カンボジアでのインターンシップには4名が参加し、現地の日系旅行会社での就業体験に加え、孤児院や貧困支援の手工芸工房なども見学しました。

欧米やアジアに半年～1年留学現地学校で表彰された学生も

本学では、国際的視野を持ち、社会に貢献できる学生を育成することを目的に、多様な長期留学制度(半年～1年)を提供しています。

2019年度春学期からは、5名がアメリカやアイルランド、マレーシアなどに長期留学。そのうちの一人、オーストラリアのニューカッスル大学付属英語学校に半年間留学した千田愛奈さんは、「現地では海外の留学生と積極的に英語で話し、3～4ヶ月後に英語力



現地の大学で表彰された千田愛奈さん

の向上を実感。長期だからこそ語学力が身につきました」と語ります。留学先では授業に加え、週3回開催される任意参加の学習クラスにも出席した千田さん。その学習意欲が現地大学から評価され、留学生約200名の中から“The Student Achievement Award 2019”

の最終候補に選ばれ、表彰されました。

2019年秋学期からは、6名の学生が半年～1年間の長期留学に出発。アメリカやイギリスのほか、中国、韓国に留学する学生も。留学に先立ち、7月には認定式が行われ、「過去2回の短期留学に参加。今度は長期留学なので、さらに成長して帰ってきたい」(江口佳凜さん)、「中国長期留学は現代経営学部の学生では初なので、後輩の手本となれるよう努力したい」(中島日菜子さん)などの意気込みが聞かれました。



現地の人と深く関わるのも長期留学の醍醐味

得意なスポーツを通じて海外で活躍する学生も登場

クリケットの富澤望選手(4年)は、日本代表候補に選出され、10月から半年間休学してオーストラリアへ。剣道の土屋麗香選手(2年)は、国際大会で優勝を飾り、ベトナムで剣道師範としても活躍。また、ストリートサッカーの永井佑京選手(2年)も国内外の大会で活躍中です。

「伝統と飛翔」をテーマに大学のロゴマークがリニューアル

2019年度より本学のロゴマークが生まれ変わりました。東洋学園の創立80周年を記念して制定された旧ロゴマークをベースに、グローバル化・デジタル化が進む時代に合わせたデザインへとリニューアル。凛々しく羽を広げたフェニックス(不死鳥)の姿に、将来へと大きく羽ばたく本学のイメージを投影しました。上を向いたフェニックスの頭は矢印にも見える形で、はっきりとした上昇の意志を表しています。メインカラーには観智を示すTOGAKUクリムゾンレッドを配しています。



東洋学園大学



\ TOKYO 2020を学生たちの成長の機会に! /

オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

都知事も参加したイベントでパラスポーツの普及に貢献

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)に向けて、本学では「TOGAKU 2020プロジェクト」と題した独自の取り組みを実施しています。同プロジェクトの主な目的は、オリンピック教育の推進やグローバル人材の育成、パラリンピックへの理解促進など。こうした影響もあり、最近ではスポーツボランティアに興味を持ち、自発的に参加する学生が増加しています。

9/23(月)には、東京都主催のパラスポーツ紹介イベント「BEYOND PARK 秋葉原」に本学の学生がボランティアとして参加。「TOGAKUパラスポーツ」の部員3名と、人間科学部「スポーツ・健康ゼミ」(澁谷智久准教授)のゼミ生2名が協力し合い、ポッチャ競技体験コーナーの運営を行いました。

学生たちは、小池都知事も参加したエキシビジョンマッチの審判を担当。また、一般の方々が競技を体験する際のサポートを行い、ポッチャ競技の普及に貢献しました。



小池都知事とTOGAKUパラスポーツ部員

東京2020大会ボランティアに40名を超える学生が応募

学生たちが東京2020大会を「自分ごと」と捉えて成長につなげるために、本学では大会ボランティアへの参加も推奨

してきました。そして実際、40名を超える学生(うち大会ボランティア30名以上、都市ボランティア10名以上)が応募手続きを行いました。

応募した学生からは「今まであまりスポーツに縁がなかったけれど、オリンピックを機に関われたらと思い、大会ボランティアに応募。どの担当になるかは未定ですが、大会本番が楽しみです!」(現代経営学部2年 金井さん)との声も。また、ラグビーワールドカップ2019大会にボランティアや通訳アルバイトなどで参加したという学生も多く、学部や学年を問わずスポーツボランティアへの参加が広がりを見せています。

オリンピックの舞台となる新国立競技場の建設定点観測も!

グローバル・コミュニケーション学科の荻野ゼミでは、新国立競技場建設定点観測を2016年から実施。テレビや新聞等のメディアからも注目を集めました。泰松ゼミへと学生3代で受け継いだ同プロジェクトもいよいよ終盤。変わりゆく東京のまちを研究する貴重な機会となりました。



NHK BSプレミアム「アROUND TOKYO」(2019.1/27)の生放送の様子

2019年度の各学部の取り組み

グロービス学部は海外の大学とコラボし、現代経営学部は産学連携を積極的に導入。人間科学部では、最新の国家資格に対応したカリキュラムの用意も。時代の流れを取り入れながら、常に進化する各学部の学びをご紹介します。

グローバル・コミュニケーション学部

韓国の2つの大学と合同で研究成果発表会を実施

グローバル・コミュニケーション学部では、泰松範行教授のゼミが中心となって4年前から韓国・安養大と交流を行ってきました。今年は、同国の全北大も加わり、3大学50名超が本学に集結。合同で研究成果発表会を行い、各大学の学生が「観光政策」をテーマにプレゼンを実施しました。本学学生は「オリンピックが都市に与える効果について考える～1964年と2020年の比較を通して～」と題した研



韓国の学生と一緒に東京観光も

究成果を発表。安養大は「北朝鮮の観光政策」、全北大は「Youth mall」について発表し、意見交換を行いました。また、翌日には本学学生と韓国の学生で東京観光へ。上野や浅草などを観光しながら、韓国語、英語、日本語の3カ国語を駆使して親睦を深めました。



学部の1～4年生まで幅広く参加。韓国からは23名の学生が来学

人間科学部

国家資格「公認心理師」の養成カリキュラムに対応

心理専門職としては初の国家資格「公認心理師」が2018年度に制定されました。これを受け、人間科学部では公認心理師養成カリキュラムに対応。資格取得支援を行っています。

また、オープンキャンパスの場を活用して、まだまだ知られていない公認心理師について解説するガイダンスも実施。受験を控えた高校生が多く参加し、

「勉強になった」という声も聞かれました。過去に人間科学部で学び、現在は臨床心理の現場で働く卒業生たちも、続々と同資格に合格している様子。本学部での学びが、資格の取得に役立っていることがうかがえます



オープンキャンパスでのガイダンスの様子



「たまプレーザ テラス」を視察する「マーケティングとメディア研究ゼミ」の学生たち

現代経営学部

有名ショッピングセンターの活性化プランを学生が提案

現代経営学部では、さまざまな産学連携プロジェクトを実施。「マーケティングとメディア研究ゼミ」(八塩圭子准教授)は、(株)東急モルズデベロップメントと連携し、学生発のショッピングセンター活性化策を同社に提案しました。

都心の大学ならではの地の利を活かし、学生たちは「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」や「たまプレーザテラス」などを視察。リアルなマーケティングをもとにした実践的プランが出揃いました。

メディアからも注目を集めた産学“寺”連携プロジェクト

現代経営学部の2年次科目「企画・プレゼンテーション技法」(本庄加代子准教授)では、「お寺ステイ」事業を展開する(株)シェアウィングと連携し、港区・正傳寺の活性化プランを提案。学生たちは、闘茶体験や「棺桶ワーク」を中心としたお葬式体験など、独創的かつ実践的なプランを立案しました。「存続の危機に瀕するお寺の今後をどうするか」という社会的課題にも応える本プロジェクトには、メディア各社も大注目。日本経済新聞や毎日新聞のニ

ュースサイト、NHK「首都圏ネットワーク」などでも紹介され、話題となりました。



メディア向け説明会には30名以上の記者が参加

話題のトレーラーハウスの新たな活用法を考える!

近年では移動式店舗や災害時の仮設住宅などにも活用され、注目を集めているトレーラーハウス。「新商品開発ゼミ」(安藤拓生専任講師)では、このトレーラーハウスのデザイン・設計・製造・販売を手掛ける(株)カンバーランド・ジャパンと連携し、学生が活用アイデアを提案するプロジェクトを実施しました。



ゼミ合宿で長野県の本社を訪れ、展示場や工場を見学

令和初の学園祭は大盛況に!

第27回東洋学園大学フェニックス祭 ―郷郷祭り―

毎年恒例の「フェニックス祭―郷郷祭り」を10/19(土)・20(日)に開催しました。初日は雨だったものの2日目は天候が回復し、2日間で1,600人以上の来場者で賑わいました。

今年のテーマは「～伝統よ 永遠に～令和に輝け未来につなげ」。流山時代か

ら続く伝統の「出店対抗企画」をはじめ、学園祭運営局による本格的な「お化け屋敷」、近隣の小学校などにご協力いただいた「ちびっこ作品展」なども開催。さらに、公認ダンス部「EXTREME☆STEPPERS」やアクロバットサークル「CATS」など学生団体によるショーや人

気アイドルのライブも行われ、手作り感満載の学園祭で盛り上がりました。

また、田中菊子先生による「気軽にできる健康法」というテーマの講演も。同窓生の方々にも多数ご来学いただき、アットホームな雰囲気の中で先生とお話したり、旧交を温めていました。



学生たちの活躍

本学の学生がTOEIC満点を獲得する快挙！
また、本学初となる「初級障がい者スポーツ指導員」資格取得者も誕生しました。

TOEICで990点満点を獲得し、学長特別賞を受賞

英語コミュニケーション学科4年 保住和さん



授賞式に出席した保住さんと且学長、松本副学長、高尾教授、飯尾教授、ALPSのクラスメートたち

2019年1/13(日)に開催された第237回TOEIC試験にて、英語コミュニケーション学科4年の保住和さんが990点(満点)を獲得しました。

保住さんは、2018年10月のTOEIC試験で940点を獲得。さらなるスコアアップに挑戦し、見事に満点という快挙を成し遂げました。

その功績を讃えて、保住さんには学長特別賞が授与されました。授与式には且祐介学長をはじめ、保住さんのゼミ担当教授でもある松本美千代副学長、グローバル・コミュニケーション学部長の高尾享幸教授、英語教育開発センター長の飯尾牧子教授、そして保住さんのクラスメートらが出席。喜びを分かち合いました。

授与式後の懇談会では、且学長から「TOEIC990点獲得というのは、私が知る限り本学の在学生では初の快挙。大学としても本当に嬉しい」と努力を讃える言葉が贈られました。

また、松本副学長は「実は、松本ゼミの卒業生らが『後輩(保住さん)のために使ってほしい』と、

翻訳活動の謝礼を寄付し、TOEICの受験費用を賄ってくれた。その結果、満点という成果を出してくれたことが、ゼミとしても本当に嬉しい」と、先輩たちのサポートについて明かしました。

保住さんは「今後は難しいといわれている英検1級を目指したい」と意気込みを語り、クラスメートや教員らに激励を受けました。



且学長から表彰状を受け取る保住さん。今後は新たな目標である英検1級の取得を目指す

ボランティアや資格取得を通じて パラスポーツの普及に貢献

人間科学部4年 木村駿汰さん(2019年9月卒)



初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得し、「これまで以上に障がい者スポーツの普及や支援に取り組みたい」と語る木村さん

人間科学部4年の木村駿汰さんが、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会の公認障がい者スポーツ指導員養成講習会を修了。同法人の公認資格である「初級障がい者スポーツ指導員」に認定されました。同資格の取得は本学学生として初。その功績を讃え、学部長奨励賞が授与されました。

東洋学園大学の公認学生団体「TOGAKUパラスポーツ」の初代部長でもある木村さん。これまでも文京区のスポーツボランティアとして活動し、区内のイベントをはじめとするさまざまな場所で障がい者スポーツ・ポッチャの普及活動に貢献してきました。

「初級障がい者スポーツ指導員」に認定されたことで、今後はポッチャ以外の種目の指導や審判なども担当できるようにするとのこと。



木村さんはこれまでも、文京区のスポーツイベントや地域のお祭りにボランティア参加し、ポッチャ体験会の実施などをサポート

学生団体活動レポート

各部活・サークルの活動内容をお伝えします。

テニス部

関東大学テニスリーグは3部残留

今年の関東大学テニスリーグでは、女子は最終成績3部3位(3勝2敗)。男子は3部5位(1勝4敗)となり、入替戦で勝利して3部残留を死守しました。

今季は男女ともに苦しいシーズンとなりましたが、1・2年生が頭角を現してきており、来季の成長が期待されます。



硬式野球部

東京新大学野球リーグで奮闘

今年度の硬式野球部は東京新大学野球リーグ2部に所属し、春季リーグ戦では6勝4敗で3位と健闘。一方、秋季リーグ戦は最終戦を前に本学を含めた3位以下が3勝6敗で並ぶ大混戦となり、チームの成長に向けてさまざまな課題を発見できるシーズンとなりました。

スケート部

2年連続インカレ出場決定!

10/12(土)開催の「第13回東日本学生フィギュアスケート選手権大会」(女子6級クラス)に戸室梨々奈選手(人間科学部2年)が出演。45選手中10位という好成績を収め、1月に行われる「第92回日本学生氷上選手権大会」(インカレ)出場権を獲得しました!



公認サークル

ダンス、音楽、eスポーツなどの公認団体もアクティブに活動中!

公認ダンス部「EXTREME☆STEPPERS」は春と夏にライブハウスイベントを開催しており、今夏も部員35名がパフォーマンスを披露(写真左下)。また、アクロバットサークル「CATS」がお台場のZepp DiverCityで行われた「CAMPUS COLLECTION TOKYO」に出演しました。さらに「東洋学園大学esportsサークル」は、他大学を交えたゲーム大会を主催するなど学内外で活躍中(写真中)。音楽系の公認団体「Heavenly Gospel Team」、「作詞作曲同好会」、「Rhyme」は学内で合同ライブを開催しました(写真右)。



教員メッセージ

長年にわたって東洋学園の発展に貢献され
惜しまれつつ退職される先生方からのメッセージをご紹介します。



人間科学部

田中 菊子 教授

(専門分野：体育学、セクシュアリティ)

「多くの卒業生と教職員、
保護者の皆様に感謝！」

1978年4月に東洋女子短期大学に赴任から15年間、東洋学園大学の教員として27年間、合わせて42年間にわたり教員生活を過ごすことができました。その間、結婚、妊娠出産、子育てを経験。親にとって子どもはかけがえのない存在と実感し、学生を指導する気持ちも変化していったように感じます。時には母親のように諭し、時には教員として厳しく真剣に学生を叱ったこともありました。

長きにわたり教員生活を続けることができましたのは、かわいい教え子や教職員の皆様に励まされ、助けられ、応援していただいたおかげです。心より感謝いたします。また、保護者の皆様からは学

生たちへの教育方針や成績、人間関係などの相談を受け、お電話で対応させていただいたり、研究室やカフェなどで直接お話をさせていただくこともありました。

スポーツや授業を通しての人間教育という立場では、学生たちと共に活動し、真剣に彼らの人生に語り掛けていたと思えます。どれくらい彼らの心に刺さっていたかはわかりません。自己満足であったかもしれません。しかし、「人生明るく、元気よく、一生懸命」をモットーに学生たちと過ごしてきたことは確かです。

最後に、今後の東洋学園大学の益々のご発展と同窓生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



現代経営学部/大学院 現代経営研究科

横山 和子 教授

(専門分野：グローバル人材開発、人的資源管理、人材開発)

「東洋学園での30年を振り返って」

「光陰矢の如し」といいますが、東洋学園に勤務した30年はあっという間でした。私は東洋女子短期大学に2年間勤務後、1992年から東洋学園大学に勤務。短大では欧米文化学科、大学では人文学部を経て、現在は現代経営学部、大学院では現代経営研究科に所属しています。

教員人生は千葉県流山キャンパスで始まりました。当時はのどかで、授業が終わった後に教員有志でテニスを楽しんだことは、よき思い出です。

先日、最寄りの区役所に行くと、窓口の女性から「横山先生ですね」と声をかけられました。彼女は欧米文化学科の卒業生でした。短大で私の授業を受けて社

会貢献に興味を持ち、その後、4年制大学の福祉学部編入。現在は公務員として区役所の介護福祉課で働いているそうです。教員として至福の時間でした。

大学で教える傍ら、7冊の書籍を出版しました。近著は同僚のSarah Birchley先生との共著のeBook『Transnational Entrepreneurship in South East Asia - Japanese Self-Initiated Expatriate Entrepreneurs』(Springer社、2019)です。この本は東南アジア7ヶ国を訪問し、現地の日本人起業家50人をインタビューし分析したものです。無料でダウンロードできますので、久しぶりに英語の文章に触れてみませんか？

著書URL : <https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-32-9252-9>



現代経営学部

鵜瀨 恵子 教授

(専門分野：経済法、競争政策)

「教員に転身して充実した日々を過ごせました」

2013年に採用されて7年目。行政機関から転身して、充実したセカンドライフを過ごすことができ、同僚の教員や職員の皆様と学生たちに感謝しています。

現代経営学部では、経済学や法律の入門科目、私の専門に近い産業組織論、ビジネス法などのほか、1～4年までクラスやゼミを担当してきました。1～4年まで切れ目なく担任がいるというのは、本学園の教育課程の気に入っているところです。知識も態度も子どもっぽかった教養基礎演習の学生が、スーツを着て就活をし、頼もしくゼミを巣立っていく姿には、毎年感動します。創立以来の諸先輩を仰ぎ見て、皆それぞれに、社会に貢献する

人材になってほしいと思います。

正課外の思い出としては、公務員試験の自主ゼミと、食生活応援プロジェクトがあります。担任した2年生が「先生、オレ、公務員試験受けたら受かるかな?」と言出したのがきっかけで、他学部も含めて毎年自主ゼミを募集し、黙々と問題集を解く学生たちと長い時間を過ごしました。また、企業の協力を得て学生にランチを配る取り組みを始めたところ、3年目に学園の予算をいただき、朝食にも拡大し、図書館や保健室のコラボ企画も生まれました。栄養のみならず、学修も、将来も、学生が自分ごととして考えるよう、そっと促していきたいと思っています。



グローバル・コミュニケーション学部

末藤 美津子 教授

(専門分野：教育学)

「ぜひ英語の教員を目指してください」

2013年4月にグローバル・コミュニケーション学部が新設された折に、教職課程の教育学関連の科目担当者として東洋学園大学に採用されました。

かつては英語の教員をそれなりに輩出していた本学園ですが、4年制の東洋学園大学になってからは、既卒生が改めて教職の採用試験を受けて教員になるケースが増えています。そうした先輩方を引き、大学時代のこと、教職を目指した動機、現在の教員としての仕事ぶりなどを、教職課程の履修学生に話していただく機会をつくっています。憧れの教職に就いている先輩の話に、学生たちは熱心に耳を傾け、気になることを活発に質問しています。

こうしたつながりは、ある意味、大学の貴重な財産だと思います。

教職課程の現実はなかなか厳しいです。1年生の時には英コミ学科の半数ほどの学生が教職課程の履修を希望していますが、学年進行につれ履修者は減っていき、例年、4年生で教育実習に出る学生は10名以下となっています。とはいえ、2018年度にはとても嬉しい出来事がありました。大学入学時から教員志望で、教員採用試験に向けた勉強を熱心に続けてきた学生が、現役で千葉県の教員採用試験に合格したのです。一人でも多くの学生がこのような先輩の後に続いて、教職に就いてもらいたいと願っています。

職員メッセージ

「東洋学園大学での思い出」

勤続43年、来春定年を迎えられる
吉田勉事務局長のコメントをご紹介します。



吉田 勉事務局長 (法人本部)

Q1. 東洋学園入職のきっかけを教えてください

大学・就職部の紹介です。入職年(昭和52年)の1月に訪問し、アツという間に理事長、理事面接で採用が決まりました。同期入職は男性3名、新卒男子は初採用とのことでした。女性は東洋女子短期大学の卒業生5名だったと思います。2月から入学試験の手伝い(アルバイト)として勤務が始まり、出願受付、試験場準備、入学試験、採点集計、合格発表、入学手続き等の業務を行い、昭和52年(1977年)4月1日を迎えました。

Q2. これまでに担当された部署や学生との思い出深いエピソードは?

総務課所属からスタートして、流山・総務課→総務課→経理課→流山就職課・学生課→総務課→現代経営学部事務部→企画開発本部入試課→法人本部へ。短大時代は明るく元気のよい学生さんが多かったですね。卒業後も年賀状のやり取りをしたり、結婚式に招待してくれた卒業生もいました。4年制大学では、東京消防庁本郷消防団へ入団した学生さんが印象深いです。昨年、転職しましたと大学に挨拶に来てくれました。

Q3. 校友や東洋学園関係者へのメッセージをお願いします!

定年までの43年間勤めることができたのも、社会人1年目頃の諸先輩方々のご指導、また、サポートしてくれた後輩の皆さんのおかげです。心から感謝いたします。皆さんとの出会いを大切に、残りの下り坂の人生を明るく、楽しく、元気よく過ごしていきたいと思っています。最後に、卒業生並びに教職員の皆様のご健康と益々のご活躍、そして東洋学園のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

東洋学園大学の教育振興基金へのご協力をお願い

学校法人東洋学園は1926（大正15）年に建学し、今年創立93周年を迎えます。この間、在学生のご父母・保証人や、卒業生各位のお力添えを賜り、高く掲げた理想の教育の灯を消すことなく、今日を迎えることができました。そして来る2026年には創立100周年を迎えます。

本学は①時代の変化に応える大学、

②国際人を育てる大学、③面倒見のよい大学、を標榜してきました。この目的を達するため、2018年度よりキャンパスを本郷に集約し、全学生が4年間、本郷キャンパスで学びます。分散していた教育資源を都心のキャンパスに集中し、教育と研究の質を高め、学部・学部の垣根を越えた交流や支援体制の充実を図り、より良い修学環境を実現します。

このためにご父母・保証人の方々からは学納金をお納めいただき、国からも補助金をいただいておりますが、さらに将来に向けた新規プログラムの展開や施設、設備の充実には多額の資金を要します。本学は多くの方々のご支援を仰ぐことによって、この大きな飛躍を図ることが可能となります。

創立100周年に向け、キャンパスの

本郷集約により、教育内容の充実、修学環境の一層の整備を図るため、格別のお力添えを切にお願い申し上げます。

東洋学園 学園長 江澤 雄一
理事長 愛知 太郎

募金目的

- 一、キャンパス教育施設設備の充実
校舎やグラウンド等キャンパスの教育環境の整備を行い、快適で、安全な教育環境を提供します。
- 二、奨学金制度の充実
学業の奨励と経済援助を両輪とし、留学時の負担軽減にも配慮して、有為な人材の育成に資するよう、心の通った奨学金制度を確立します。
- 三、教育・学術等の研究奨励、振興
教育・学術の研究奨励、海外派遣等に資する為、毎年度計画的に基金の増額を図り、効果的運用を推進します。
- 四、学生の課外活動の奨励
大学内のスポーツや文化活動を活性化し、東洋学園大学への愛校心がさらに高められるよう、全学をあげて支援します。
- 五、その他
教育研究の質的向上を図るため、ITを含めさまざまな面から施設環境の一層の充実を図ります。

募金目標額 2千万円

募集期間 2019年5月～2020年3月

寄付金種別

1口 1万円（3口以上のご協力をいただければ幸いに存じます）
※金額の多寡に関わらずありがたくお受けします。
ご寄付いただいた方は大学広報誌にお名前を掲載させていただきます。
匿名をご希望の方は、寄付申込書にその旨ご記入ください。

募集対象

在学生とごご父母等、同窓生とごご家族、教職員その他の本学関係者

申込・送金方法

別紙の寄付申込書にご記入いただき、同封の封筒にてご送付ください。送金につきましては、銀行、郵便局、信用金庫、信用組合等で、同封の振込用紙をご利用いただくか、クレジットカードによりお支払いください。金融機関、クレジットカード会社からの入金通知を受けた後、大学より領収書をご送付申し上げます。税務申告にご利用ください。なお、この募金は「任意」のものです。

お問い合わせ先

学校法人 東洋学園 法人本部
〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL 03-3811-1731

東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名（敬称略・50音順）

（2018年4月～2019年3月までにご寄付いただいた方） 法人（10社）：アネス株式会社、一般財団法人 ワンアジア財団代表理事 佐藤 洋治、株式会社イズミ・コンストラクション、株式会社紀伊屋書店、株式会社マイナビ、株式会社ライセンスアカデミー、シダックスコントラクトフードサービス株式会社、スポーツ施設株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社、有限会社ワイレアデザイン 個人（17名）：遠藤 まつゑ、岡崎 勇、坂 篤郎、島根 重政、鈴木 喜久江、高橋 恵子、高橋 雅子（旧姓 恒広）、高橋 幸雄、玉木 真理、土持 正、恒広 雅良、中根 保和、林 一枝、平田 久和、三井 重信、宮井 勢都子、山本 寛之、他、氏名掲載を許諾された方以外のご寄付者（法人・個人）59名

東洋学園の歴史

第7回

東洋学園の年史編纂

～史料室の休館と移転にあたり～

東洋学園史料室

法人の意思決定が前号発行後でしたので閉鎖後の告知となりますが、東洋学園史料室は11月1日（金）で公開を終了しました。年明けから施設の撤去が始まります。2008年4月の開室前より今日まで、卒業生各位、退職教職員、それぞれのご家族、行政、他大学など各方面より賜ったご支援、ご厚情に心から感謝申し上げます。

この機に東洋学園の年史編纂を振り返りましょう。初の編纂は『本学の歩み 創立20周年記念』（1971年）、次が20年後の『学園四十年史』（1990年）です。どちらも校名のない不思議な書名ですが、共通点は1950（昭和25）年の新制東洋女子短期大学開学を創立起点としていることです。当時は他大学でも新制大学設立を起点とする傾向でしたが、それにしても旧制歯科医専時代の記述は僅かであやふやです。前者は記念誌、後者の戦後通史は精確な記述へと進化しています。



『本学の歩み』（左）と『学園四十年史』

このように20年周期で年史編纂を行う予定でしたが、ミレニアム後は不況と少子化でそれどころではありません。四大に人文学部人間科学科（当時）と現代経営学部を新設し、短大を廃止します。このドラスティックな改革が人々の心を揺さぶり、2005年から大学アーカイブズの取り組みが始まりました。その結果、創立を1926（大正15）年まで遡った『東洋学園八十年の歩み』（2007年）を編纂します。



本郷キャンパス再開発中のため流山に設けた本学初の自校史常設展（2006年）。設置に尽力した福田均元教授は本年2月に他界されました



文書資料とオーラルヒストリーの両面からアプローチした『東洋学園八十年の歩み』

その後、本郷4号館にアーカイブズを移し、2008年に東洋学園史料室として開室しました。八十年史の社会的反響を吸収、反映した保存展示施設です。ここを拠点に自校史研究の成果を企画展示、学会などで発信し、さらに人、資料、情報を呼び込む循環を作り、『年表 東洋学園史』（2009年）刊行後、各論としての企画展解説書は『本郷キャンパスの一世紀』（2019年）まで計13点になりました。

収集した資料の中には本学が全く関与しなかった同窓会独自の記念誌があります。『東洋女子歯科医学専門学校の六十八年』（東洋紫苑会 1985年）と『ならしの』（ならしの会 1994年）です。前者は1917年の旧明華から33年間の歯科医専時代と同窓会活動をまとめた580ページ、後者は津田沼に3年弱存在した旧制東洋高等学校と同窓会活動647ページの記録です。二冊の本

は、歴史に名を刻むにはまず当事者自身が資料を残し、書き、語る、知的営為が必須であることを示しています。



『東洋女子歯科医学専門学校の六十八年』（左）と『ならしの』（右）

来春の再開を目指し、東洋学園史料室は1号館9階に移転します。分散していた展示・収蔵・作業執務の各機能を集約し、コンパクトで機能性の高い大学アーカイブズを構築します。



解体を待つ現史料室。短時間にこれだけのものができたのは、故人となった方も含む大勢の力の結晶です

実務に直結した経営学の学びの場

東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻修士課程

大学院で分析スキルや統計・事例研究のスキルを磨き、協定校のKing's Collegeとの共同研究に参加しませんか？

東洋学園大学大学院は昨年2018年に創設10周年を迎え、着実に実績を積み重ねています。本学大学院の特徴は、ほぼ一対一の研究指導体制、都心の好立地、親身で多様性を尊重する学習環境、優れたPC環境、資格取得を支援する環境などです。大学院は国際資格であるファイナンシャル・プランナー(CFP*)の認定教育プログラム実施大学院ともなっています。

院生は、経営学の講義、ゼミ指導を通じ、分析スキルや統計・事例研究のス

キルを磨いています。大学院はさまざまなバックグラウンドの人々を受け入れ、一部科目は夜間、土曜日に開講しています。

大学院は昨年「研究生制度」を創設しました。研究生制度は、本学の大学院修士生あるいは海外の本学協定校の大学院修士生に対し、修士課程における研究テーマをさらに発展させることを目的に、一定期間本学大学院に在籍することを認める制度です。現在、一名の研究生が大学院で研鑽を積んでいます。

昨年は、大学院の創設10周年の記念事業としてネパールのKing's Collegeの大学院生を招待し、学術文化交流を行いました。今年度も12月にKing's Collegeの学生を招待し、本学の大学院生とInnovation and Entrepreneurshipのテーマで共同研究を行います。そして、2020年3月には、本学の大学院生がネパールのKing's Collegeに招待され、カトマンズ

市で共同研究をさらに深める予定です。卒業生の中で本学の大学院で学ぶことに少しでも興味を持つ人がいました

ら、ぜひ入試課を通じご相談ください。お待ちしております。

*CFP: Certified Financial Planner



大学院生との授業風景

現代経営研究科の特徴

■専門研究分野(一例)

経営戦略、マーケティング、人的資源管理、経営組織論、ファイナンス、会計、日本の経営システム、グローバル人材開発、グローバル経営、国際経済学、労働経済学、環境経営、労働と所得格差、介護ビジネス、スポーツ・ビジネス、デザイン・マネジメント、ソーシャル・ビジネスほか、多彩な研究分野から関心のあるテーマについて学術論文を書くことができます。

※大学院ホームページで過去の修士論文タイトルを公開中です。

<https://www.tyg.jp/faculty/grad/masters.html>

■修了後の主な就職先(一例)

シティバンク銀行株式会社、藍澤証券株式会社、アディダスジャパン株式会社、王子コンテナ株式会社、石川島播磨重工業株式会社、上海住友商事有限公司、その他の民間企業やNPO法人など、幅広い分野で活躍しています。

■大学院ホームページ

<https://www.tyg.jp/faculty/grad/index.html>

お問い合わせ先

大学院事務局 TEL: 03-3811-1696

東洋学園大学入学案内

本学では、校友の皆様が卒業後も学びの場を提供し続けたいと考えております。編入学(3年次)や大学院、科目等履修生制度などのキャリアアップ、リカレント教育の場を、学びの段階に応じて設けております。編入学、大学院入学に際しましては「入学金免除制度」をご用意しております。また、この「入学金免除制度」は皆様のご親族(二親等以内)が本学ご入学の際にもご利用いただけます。懐かしの学び舎が、皆様の新しい学びをサポートします。

■入学金免除制度

本学園卒業生ご本人、在学生及び本学園卒業生のご親族(二親等以内)が本学に入学の場合、入学金(300,000円)を免除する制度です。※人数の制限はありません。

■編入学(3年次) / 大学院

編入学(3年次)

各学部の専門分野への強い関心と学ぶ意欲を持つ方の入学を求めています。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル化する世界を生き抜き、国際社会で活躍するために、世界についての専門知識や高い英語力を身につけます。▶グローバル・コミュニケーション学科 ▶英語コミュニケーション学科

人間科学部

心理、カウンセリング、子ども、社会、スポーツ・・・いろいろな角度から人間を幅広く学び、人を支える社会に貢献する人を目指します。▶人間科学科

現代経営学部

ビジネスや経済の中心地で、実在する企業やビジネスを題材にケーススタディ。まさに「現代」の経営を学ぶ学部です。▶現代経営学科

大学院 現代経営研究科 現代経営専攻

経営学における専門性と高度な知識を持つ職業人を育成するための高度教育機関です。

※出願資格等については入試室までお問い合わせください。

「入学金免除制度」申請状況(過去3年間)

年度	2017	2018	2019	
受験者数	21	27	16	
受験生との関係(内訳)	在学生	12	16	10
	母	9 (うち短大卒業生9)	9 (うち短大卒業生8、四大卒業生1)	5 (うち短大卒業生5)
	父	0	1 (うち四大卒業生1)	0
	祖母	0	1 (うち短大卒業生1)	1 (うち短大卒業生1)

在学生のきょうだいが受験するケースが最も多くなっています。2018年度には初めて四大卒業生のお子さんが入学されました。

■科目等履修生制度

東洋学園大学では、大学の持つ知的財産を広く社会に還元するために、科目等履修生制度を開設しています。大学院、学部ともに、開講される授業科目について、正規の学生の教育、研究に支障のない範囲において履修が認められ、単位取得が可能です。短期大学ご在学中に、教職課程を履修されながら課程修了に単位不足の方、新たな学問に取り組みたい方など、ぜひ本制度をご活用ください。本制度を利用して、日本語教員養成課程を履修し、課程修了を目指す短期大学卒業生もいらっしゃいます。卒業生が熱心に勉強に取り組む姿勢は、大学生にも良い刺激を与えてくれています。なお、大学院では大学卒業、学部では高校卒業の資格を要するなど、本制度の詳細は以下にてご確認、お問い合わせください。

※検定料等

	検定料	受講料	単位認定料
大学	10,000円	5,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)
大学院	10,000円	10,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)

お問い合わせ先 教務課

本郷キャンパス【TEL】03-3811-1785

<https://www.tyg.jp/faculty/complete.html>

お問い合わせ先

編入学、大学院入試、
入学金免除制度について

入試室 0120-104-108 (フリーダイヤル) E-mail: nyushi@of.tyg.jp

受付時間: 平日(月~金) 9:00-17:00 / 土曜日9:00-13:00 ※大学の定めた休日を除く

東洋学園だより

インフォメーション

卒業生に開かれた学び

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、
研究・教育の蓄積を皆様と広く共有するべく、研究会や公開講座を開催しています。

現代経営研究会

企業の皆様と本学教員との相互研鑽、交流を通じ、現代の経営諸問題について研究し、生きた経営ノウハウを蓄積したいと考え、2008年に大学院創設と同時に「現代経営研究会」を発足いたしました。2019年度は、「新しい価値を創る経営～地域・スポーツの視座から～」をテーマに、さまざまな業界・企業の経営者をゲスト講師に迎え、全6回の講演を実施。2020年度も秋頃から開講予定です。本研究会は無料でどなたでもご参加いただけます。詳細はHPをご覧ください。

<https://www.tyg.jp/koukaikouza/business/>

開催場所：東洋学園大学 本郷キャンパス1号館2階
フェニックスホール

※講演は18:00～19:30で聴講無料。

公開教養講座

長年にわたる本学の「リベラルアーツ教育」の伝統を受け継ぎ、2019年度より都心の本郷キャンパスで開講されることになった「公開講座(リベラルアーツ)」。幅広い教養を一流講師や文化人に学ぶ機会として、今年度は全4回開講。盛況のうちに終了しました。来春から新たな講座が始まりますので、奮ってご参加ください。なお、詳細はHPをご覧ください。

<https://www.tyg.jp/koukaikouza/k-kouza/>

お問い合わせ先
東洋学園大学 総務部
【TEL】03-3811-1696(代)

生涯学習

東洋学園大学では、「生涯学習」の新たな形を皆様にご提供するために、2019年度より本郷キャンパスにて「生涯学習講座」をする運びとなりました。「誰でも学ぶことができる」「学ぶ意欲を支援する」をモットーに、地域の皆さまを対象に講座を開催いたします。2020年春学期から新たな講座が始まりますので、奮ってご参加ください。なお、詳細はHPをご覧ください。

<https://www.tyg.jp/koukaikouza/extension/>

お問い合わせ先
東洋学園大学 総務部 生涯学習講座係
【TEL】03-3811-1696(代)

学内施設利用について

図書館利用のご案内(本郷)

利用登録をすれば卒業生も本学図書館を利用することができます。登録は無料。卒業を証明するもの(学位記またはそのコピー、大学からの郵便物、卒業証明書等)と、現住所を確認するもの(運転免許証、健康保険証等)を図書館カウンターまでお持ちください。「図書館利用証」を発行します。

【利用できるサービス】

閲覧、文献複写、貸出(図書のみ3冊まで、期間：2週間)

詳しくは図書館ホームページをご覧ください。<https://opac.lib.tyg.jp/>

史料室のご案内(本郷)

2020年5月の再開(予定)に向け鋭意準備中です。当室は大学アーカイブズ(文書資料室)として東洋学園史料資料の収集・整理・保存・研究・活用の各業務を担い、以て本学の発展に寄与します。資料活用の一環として展示・閲覧・複写・貸し出しのサービスを行います。

【場所】1号館9階(予定)

【常設展示公開】月～金(平日)10:00～16:30(予定)

東洋学園史料室ウェブサイト <http://www.tyg-archives.jp/>

各種証明書の発行等について

～2018年4月2日より、郵送先・申込窓口が本郷キャンパスに統合されました～

各種証明書(卒業証明書、成績証明書)の発行

各種証明書(卒業証明書、成績証明書)は、郵送または窓口での申し込みが可能です。いずれも申し込みに必要な書類等がありますので、事前に本学ホームページにてご確認の上お申し込みください。なお、2018年4月2日より、郵送先・申込窓口が本郷キャンパスに統合されました。流山キャンパスでは発行できませんのでご注意ください。

所属

●大学 卒業生 ●大学院 修了生 ●短期大学 卒業生/短期大学専攻科 修了生

郵送先・申込窓口・受付時間

【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 本郷キャンパス教務課 証明書係

【受付時間】月～金曜：9:00～16:30 土曜：9:00～12:30

【HP】<https://www.tyg.jp/graduate/certificate.html> ※個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。

東洋学園大学同窓会からのお知らせ

～異動調査ご協力をお願い～

東洋学園大学同窓会からのお知らせです。すでに本会会員の皆様のお手元には本年の会報、異動調査票(対象卒業期のみ)など一紙が届いているものと存じます。異動調査につきましては、本会HP(<http://tgoal.jp/>)からも随時受け付けておりますので、本年度が対象となっていない皆様におかれましても、ぜひともご協力をお願いいたします。いただきました会員情報につきましては、厳重な管理を行った上で、同窓会の主旨に基づき、本会の活動、学園、母校の発展、および在学生の後援のために活用させていただきます。

お問い合わせ先
東洋学園大学同窓会室(原則毎週木曜日)
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
【TEL】03-3811-1820
【HP】<http://tgoal.jp/>
※来室の際は大学総務課を通した上でお訪ねください

東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

同窓会事務局は定期的に開けているわけではありませんが、同窓生の皆様からのお問い合わせやご質問には常に耳を傾け、極力早くお答えするよう努力しています。今後も、会報やフェニックス会についてのご意見やご要望、またクラス会などについての情報は、メール、ファックス、郵便で事務局にお寄せいただきたいと思います。活発な同窓会活動のために皆様のご協力をお願いいたします。なお、住所変更等の連絡も事務局をお願いいたします。

お問い合わせ先
東洋女子短期大学同窓会
【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
東洋学園大学内
【FAX】03-3811-5102 【E-mail】dosokai@ec.tyg.jp

WEBで「東洋学園だより」の
バックナンバーをご覧いただけます!

制作スタッフより

【窓口変更のご挨拶】本年4月、校友会事務局の役割は学生支援課(旧学生部)

に引き継がれ、校友の皆様は学生支援課が担当させていただきますことになりました。なお、連絡先は旧校友会事務局のまま運用いたしますので、東洋学園だよりのご感想などぜひお寄せください。ご住所変更は各同窓会にてお手続きいただいております。校友向けHPからもリンクがありますのでぜひご利用ください。

【メールマガジン配信サービスのご案内】

校友の皆様にご参加いただける学内行事や各種お知らせなどを掲載したメールマガジンの配信サービスを行っています(約年4回)。在学生もご利用いただけます。どうぞご登録ください。



メールマガジン



東洋学園だより

東洋学園大学
学生支援課

〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3
東洋学園大学 本郷キャンパス4号館2階

TEL

03-3811-1072

E-MAIL

koyukai-info@tyg.jp

ホームページ

<http://tgblog.tyg.jp/koyukai/>